

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171000359), 法人名 (有限会社 敬愛サービス), 事業所名 (グループホームななかまど大麻), 所在地 (北海道江別市大麻元町192-28), 自己評価作成日 (令和4年6月23日), 評価結果市町村受理日 (令和4年7月27日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の「一人ひとりの喜怒哀楽で輝くところ」の理念の下、人のもつさまざまな感情の中で、喜びや楽しみだけでなく怒りや悲しみも全て受け止めその人らしく、充実した日常生活を送ることができる様、職員一同お手伝いさせていただいております。また、自治会の行事にも積極的に参加をし、地域社会の一員として生活の継続に努めております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022&kani=true&JigyosyoCd=0171000359-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年7月8日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市中心部より車で15分程の豊幌地区に位置し、国道12号線沿い、JR大麻駅から徒歩圏と至便な環境下に立地している。開設は平成14年で、ホーム用に新設された2階建ての建物の各階に1ユニットが入り、2ユニット18名の高齢者が生活を共にしている。法人は同地区において、もう1ヶ所グループホームを運営しており、現在はコロナ禍で相互に自粛傾向にあるが、地域密着型サービスとして、地域町内会や他法人の事業所等と相互の協体制作りに尽力してきた。現体制になってから代表を中心に、職員、そして利用者家族との意見交換によって作られた事業所理念「一人ひとりの喜怒哀楽で輝くところ」を念頭に、職員は日々その実現に努めている。今後も更なる活躍が望まれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員全員で考え代表が取りまとめ、ダイルームやトイレ、いつも目に入る所に掲げてユニット会議には職員全員で唱和し確認している。	職員、利用者家族が共に意見を出し合っ て作成した理念を掲げ、日常的に共有し ている。また、介護姿勢、理念の達成度 について定期的にスタッフ会議の場で検証、 協議しながら、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し町内会で行われるバー ベキューや日帰り温泉に参加している。 回覧板を届けに行くときや散歩する 時は、近隣の方に挨拶をし積極的に声 を掛けている。	コロナ前は、町内会、地域活動に積極 的に参加していた。相互の自粛傾向の中、 地域との交流、回覧板での事業所の近況 の周知等、関係維持について、職員間で 協議している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を対象に認知症を理解して 頂けるよう職員を交えて研修を行って いる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度町内会、包括、民生委員、ご 家族様、利用者様と参加して頂き意見や 希望などを聞き参考にしサービス向上に 活かしている。	コロナ前は家族、家族代表、地域代表、行 政の参加を得て定例で開催していた。現 在は書面開催となっているが、運営状況 やヒヤリハット・事故等、現状の課題を報 告し、委員から意見を聞き取り、運営に活 かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	代表が中心となり、取り組んでいます。オ レンジRUNの参加や、研修にも参加して おり、研修の報告も社内報で周知して いる。	代表が中心となり、市、地域包括支援セ ンターから情報提供・アドバイスを 得ている。また、包括主催の活動・研修への参加や 運営状況や事業所での取り組みについて 報告し、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に開錠しておりユニット会議で は身体拘束について理解と共有して「身 体拘束はしない」と言うことを職員全 員の共通で実施している。	身体拘束廃止委員会を設置し、定例で開 催、内容について全職員に周知している。 全利用者の現状の確認と不適切なケアに ついて、具体的な事例を職員間で協議し、 改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修やユニット会議、外部研修等 で学ぶ機会を持ち虐待の防止に努め ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者様もおり、ユニット会議で代表より必要性説明、理解をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書の説明をする時には、分かりやすく専門用語は使う事なく十分な説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス計画書に家族の要望を記載するところがあり、ご家族様には、そこに記入できるようになっている。面会時には要望など聞き運営に反映させている。利用者様にはモニタリングで要望を聞き全職員で共有している。	本人・家族が意見・要望を話しやすい関係作りを心掛けている。面会もガラス越しやリモート面会等、方法について職員間で検討し、感染防止に留意・工夫しながら、弾力的に再開している。毎月のお便りで個別の生活状況・健康状態について、写真を添えて詳細に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表、管理者は毎月行われるユニット会議に参加し、日常業務の中で気付いた事や意見を伝えられる様に努め、働きやすい職場を目指している。	月例のユニット会議や日々の申し送りの場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、管理者が面談を行い、個別の意向、提案の聞き取りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は個々の面談をする時間を設け環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修を通して学ぶ機会を多く持ち職員同士高めあう努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームとの研修や交流会を通してサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の戸惑いや困った事に寄り添い、安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や今後について話し合いをし気軽に話が出来る様に関係作りをし要望が出やすくなる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に迅速に対応しご本人様、ご家族様と話し合いの場を持つ様配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様とのコミュニケーションを図り共存共栄を目標にその人に合った支援に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム行事に参加して頂いたり、ご家族様がいつでも面会出来る様に工夫している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を設けておらず、自由に面会可能。また季節ごとの手紙や電話、年賀状を作成したり、馴染みの場所を訪れるなどし関係が途切れない様、努めている。	通例では、希望する馴染みの場所への外出は職員同行、または家族の協力を得ながら、支援している。コロナ禍であるが、感染防止に留意しながら弾力的に面会を再開し、関係が断たれないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者様同士の関係を把握する様努め、共同空間の中で利用者様同士が自由に過ごせる様、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談を受け入れる体制にあり継続的な関わりを持っています。又、ホームの行事などは事前にお知らせし気軽に尋ねられる様に配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人の今までの生活歴をご家族様からの生活歴を把握しご本人の想いに近づける様、努めている。	日々の生活に寄り添いながら、思いや意向を理解し、職員間で共有して、利用者本人の希望に沿った生活となるよう努めている。	
		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を事前に調査し使い慣れた家具などを利用し安心して生活出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、週1回の訪問介護、月1回の体重測定を行い日々の様子を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行われるユニット会議で、前もってユニット会議の要点を集め、職員の気づきを共有している。	利用者本位を基本に、家族、医療機関、職員の意見を反映し、計画作成担当者が原案を作り、職員間でモニタリング結果と合わせて検討して、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様個別の記録を取り気づいた事を記入する。業務日誌や申し送りで情報交換をする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の希望を聞き、改善出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練時には消防立ち合いで避難訓練を行っている。不審者対策の為玄関に人感センサーを取り付けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ毎日訪問診療の医師が来園し一人一人診て頂いている。訪問診療、訪問看護の記録を元に、何かあった時、不安に思う事もすぐに相談出来る環境にある。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。医療機関からの訪問診療、訪問看護の協力体制があり、受診内容については記録を基に職員間で共有し、家族にも詳細に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週に1回入っており健康管理の支援をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院に向けご家族様と連絡を密にしている。職員はご本人様の身体状況の把握に努め退院後の支援について情報交換の場を設けている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の異変、重度化した場合や、終末期の利用者様は医師、ご家族様と共に話し合いをしその方針をケース記録、申し送り等で共有している。	契約時に事業所の指針を説明し、同意を得ている。状況に合わせて意向の再確認を行いながら、協力医療機関、家族と共に終末期を支える為の話し合いを重ねている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の指定病院を定めている。また、対応の流れや、連絡先を記載し、職員間で共有している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員の立ち合いのもと、昼、夜間の年2回の防災訓練を行っている。備蓄、発電機等を常備しており、災害に備えている。	定例で火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。同法人の事業所や地域町内会との災害時の協力体制があり、相互の役割確認を行っている。	現在、法人として取り組んでいるBCP(事業継続計画)作成に併せ、家族、関係者への避難場所の周知等、計画の進展に期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない様、気を付けて対応している。個人情報厳守の様に会議で話し合っている。社内報や社内研修で、接遇研修を行い意識を高めている。	職員はプライバシーへの配慮、接遇や言葉使い、望ましいケアについて定期的に研修の場で見直し、協議している。不適切と思われる対応については、都度、相互に注意する事で改善に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の事柄から選んで頂きご本人様確認して頂き了承を得ている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別化や生活歴、ご本人様のニーズを踏まえた上で出来るだけ希望に添える様に支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用している。毎日の着替えや入浴後の着替えは、一緒に服を選んでいただき、おしゃれを楽しめる工夫をしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるように、食事前にはパタカラ体操を行っている。利用者様の身体状況に合わせて食事に関するお手伝いを一緒に行ったり、行事でも季節のものを取り入れている。毎日の献立を写真でもわかるように廊下に掲示している。	利用者の希望を取り入れており、季節感・彩りを大切にしている。皆で育てたホーム菜園の野菜を共に食す等、楽しみあるひと時としている。コロナ禍においては、感染防止に留意しながら、出来る範囲のお手伝いをお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人一人の状況に合わせた食事、水分量を確保し記録に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員と一緒に口腔ケアを行い、口腔内を確認、異変や気になる事があれば速やかに訪問歯科へ報告し対応してもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄記録をしてケース記録にて情報共有を行っている。声掛けや誘導を行い自立排泄出来る様になるべく布パンツを使用する様、努めている。	個々のタイミングを時間で把握し、声掛けを工夫しながらトイレへの誘導を行っている。羞恥心に配慮しながら、出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排泄記録を付け、排泄リズムを把握出来る様努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤やみかんの皮を使い、色やにおいでリラックスしていただけるよう工夫している。また、身体状況に合わせて安全に入浴出来る様努めている。2人介助にて支援する場合もある。	週2回の入浴を支援している。拒否がある人には時間・日程を変更し、本人の状態や希望に応じて、柔軟な対応に努めている。同性介助の希望も聞き取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人になりたいときは居室に戻り休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は職員全員で把握し薬が変更した時は必ず申し送りに記入して体調の変化の把握に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の情報を元に好きな事や趣味を知りご本人様のニーズになるべく応じられる様、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩をしたり近くをドライブしたり月に1度程度は全員で楽しめるイベント計画を楽しみながら生活出来る様努めている。	通例では個別に声掛けし、散歩や買い物等、気軽に外出が出来るよう支援している。感染防止に留意しながら外気浴の機会を設けたり、体操や運動を積極的に取り入れることで、心身の状態維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かりご本人様欲しいものと一緒に買い物に行く様、努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご家族様と話しをしたい時は施設の電話やご本人様の携帯電話で掛けられる様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節事に置物や飾り物を変えてその季節を感じ楽しめる様、工夫している。	リビングは、食卓やソファで利用者それぞれが寛いで過ごせる空間作りをしており、温・湿度管理や換気に配慮している。利用者と共に作成した作品を掲示する等、季節感、温かみある雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様の同士が同じ席になれるように、その都度考え談話されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心掛け落ち着いて過ごせる様、努めている。	使い慣れた物品の持ち込みを勧めている。家具類は、動線に配慮して設置されている。家族写真や趣味の物が飾られ、自宅のようにくつろげる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりには蛍光テープ、階段には滑り止め防止テープを貼り安全に努めている。		